

2025年12月1日

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

「PRアワード 2025」が決定

グランプリ受賞

石川県

PR パーソンの未来予測を、災害対応に応用

『能登半島地震 命を守る災害対応リアルタイム広報』



(公社)日本パブリックリレーションズ協会（理事長：山口恭正、所在地：東京都港区）はこのほど、「PRアワード 2025」審査会を開催し、今年度の「グランプリ」に「PR パーソンの未来予測を、災害対応に応用『能登半島地震 命を守る災害対応リアルタイム広報』」（エントリー会社：株式会社博報堂／株式会社北陸博報堂／株式会社博報堂プロダクツ／株式会社オズマピーアール／株式会社レオン、事業主体：石川県）を選出いたしました。

ほか「ゴールド」1件、「シルバー」に4件、「ブロンズ」に4件、さらに審査委員特別賞として1件を選出しています。

「PRアワード」事業は、PRすなわちパブリックリレーションズの優れた事例を選考・顕彰することにより、パブリックリレーションズの普及と発展に寄与することを目的に毎年実施しています。今年度は98件のエントリーがありました。

「グランプリ」「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」を受賞した全10件と審査委員特別賞1件の詳細については次頁をご覧ください。

なお、12月10日（水）17時から時事通信ホールにて「PRアワード 2025 表彰式／受賞者プレゼンテーション」を開催予定です。

<「PRアワード 2025」受賞エントリー> (全 11 件)

<グランプリ> 受賞エントリー (1 件)

■ PR パーソンの未来予測を、災害対応に応用

『能登半島地震 命を守る災害対応リアルタイム広報』

事業主体：石川県

エントリー会社：株式会社博報堂／株式会社北陸博報堂／

株式会社博報堂プロダクツ／株式会社オズマピーアール／株式会社レオン

<ゴールド> 受賞エントリー (1 件)

■ 人気スポット消失の危機を、笑いによる合意形成で地域を巻き込む物語に
道頓堀 金龍のしっぽプロジェクト

事業主体：金龍製麺株式会社

エントリー会社：株式会社博報堂/株式会社オズマピーアール

<シルバー> 受賞エントリー (4 件、エントリー登録順)

■ 中小企業の“賃上げ”の閉そく感を打破!

福利厚生を活用した新たな賃上げ手法「第3の賃上げ」

事業主体：株式会社エデンレッドジャパン

エントリー会社：株式会社エデンレッドジャパン/KMCgroup 株式会社

■ 物件探しを強化したいけど、お金も社内人的リソースが足りない…そうだ!お客様
に地元の物件を探してもらおう!「バーガーキングを増やそう」キャンペーン

事業主体：BURGER KING JAPAN(ビーケージャパンホールディングス)

エントリー会社：ザ・プロデュース合同会社/株式会社 DE/株式会社アンティル
/株式会社 sfrth

■ 「助けたいから買う」

— 貢献意欲を引き出し、食品ロスの削減につなげたファミマの『涙目シール』

事業主体：株式会社ファミリーマート

エントリー会社：The Breakthrough Company GO

■ 人生 100 年時代をどう生きるか

介護施設のシニア 1 万人と紡ぐ「Be サポーターズ!」の幸せな物語

事業主体：サントリーウエルネス株式会社

エントリー会社：サントリーウエルネス株式会社

<ブロンズ> 受賞エントリー (4件、エントリー登録順)

- **人がいないなら呼んでこよう!市民の「手伝って」を伝えるプラットフォーム“ヒダスケ!”** で年間1,500人の担い手を確保
事業主体：岐阜県飛騨市
エントリー会社：岐阜県飛騨市

- **第三者推奨を起点とした従業員エンゲージメント向上プロジェクト「おかんパン」**
事業主体：株式会社ダイヤ
エントリー会社：株式会社ダイヤ/株式会社はずむ

- **業界の垣根を超えた難病支援プロジェクト「I know IBD」**
事業主体：アッヴィ合同会社
エントリー会社：株式会社プラップジャパン

- **回転レーンで世界つなぐ**
—70カ国の料理が巡る、「回転すし、魅力最・再訴求」万博プロジェクト
事業主体：くら寿司株式会社
エントリー会社：株式会社電通 PR コンサルティング

<審査委員特別賞> 受賞エントリー (1件)

- **能登半島地震の被災地で生まれたカプセルトイ**
珠洲市立大谷小中学校 児童生徒 発案 “OHTANI CHARM”
事業主体：珠洲市立大谷小中学校
エントリー会社：青山きえ／小川琴子／松谷桜／株式会社アドビジョン銀座／
一般社団法人 2025PROJECT

<田上 智子・審査委員長の講評コメント>

本年度もおよそ 100 件にもおよぶ多数のエントリーをいただき、日本の PR 業界の発展に向けた挑戦と貢献に、心より感謝申し上げます。そして、厳正かつ多角的な議論を通じて、パブリックリレーションズの本質的な価値を見出すことに尽力いただいた審査団各位に対しても、深く敬意を表したいと思います。

本年度の審査も、まさに「真の PR」を問い直す、大変意義深い議論となりました。グランプリに輝いた「PR パーソンの未来予測を、災害対応に応用『能登半島地震 命を守る災害対応リアルタイム広報』」については、その「総合力」と「ベーシックの徹底」への評価が審査団をリードしました。「災害大国日本」において、行政がプロボノの専門家と連携し、デマや風評被害にタイムリーに対応することで、「命を守る広報活動」という PR の基本を高いレベルでやり切った意義は計り知れません。この活動が次世代の行政広報の「お手本」となり、未来の公共サービスを切り拓く「パイオニアシップ」の発露であることに、審査団全員の意見が一致しました。

ゴールドを受賞した「人気スポット消失の危機を、笑いによる合意形成で地域を巻き込む物語に道頓堀 金龍のしっぽプロジェクト」は、「対立と分断」を生む難しい状況を、「笑い」と「物語の共有」という人間的な手法で見事に融和させた点に PR の真価値を見出しました。単なる面白さではなく、経営層が勇気ある決断を下し、「覚悟」をもって社会的な合意形成を導いたことに強く心を動かされました。これは、アイデアの力で社会を変える、まさに PR ならではの挑戦でした。この挑戦は、金龍ラーメンのレピュテーション回復と地域愛醸成の力を感じさせてくれた素晴らしい事例です。

わずかな差で受賞には及ばなかったものの、審査団を大いに唸らせた素晴らしいプロジェクトが多数存在しました。これらの挑戦は、次世代の PR 活動を担う者たちにとって貴重な示唆となるものであり、ぜひともその情熱を継続し、次年度以降のアワードへの再挑戦を期待しております。

パブリックリレーションズは、社会変革の主演となり得る、エキサイティングで可能性に満ちた分野です。このアワードを通じて見出された「覚悟」に満ちた事例が、次世代の PR パーソンに大きなインスピレーションを与え、業界全体の発展を力強く牽引していくことを確信し、強い期待を込めて結びとさせていただきます。

<PR アワードグランプリ 2025 審査方針：「真の PR」が社会を変革する>

今年の PR アワードでは、基本の審査基準に加え、以下の 3 つの観点からエントリーを評価しました。「手法としてだけでなく思想としてのパブリックリレーションズ」を体現し、本質的な価値を生み出す活動を見出す羅針盤となることを目指しました。

1. オーセンティシティ (必然性) :

事業と社会を貫く「自分らしさ」で本質的な「課題」を設定しているか？

PR は、事業と社会課題が一体となった「自分らしさ (オーセンティシティ)」を持つ「課題設定」から始まります。当該事業体がこの課題に向き合う必然性と揺るぎない信念があるかを評価しました。

2. マルチステークホルダーとの共創 (対話によるうねり) :

「対話」で社会を動かす「うねり」を創ったか？

パブリックリレーションズの真価は、多様なステークホルダー間の「合意形成」を通じ、社会全体を動かす「うねり」を生み出す点にあります。多角的な視点から人々を巻き込み、具体的な成果に繋がる共創関係を築いたかを評価しました。

3. パイオニアシップ (覚悟) :

「覚悟」が次代の PR を拓く「先鞭」となったか？

これまでの常識にとらわれず、困難を乗り越え新たな地平を切り拓いた「覚悟」に光を当てました。PR パーソン自身の「胆力」と「先見性」が凝縮されたこの「覚悟」が、次世代 PR への「示唆」となり、業界発展の「先鞭」となるかを評価しました。

<審査委員> (敬称略、50音順)

■審査委員長 (敬称略)

田上 智子 株式会社シナジア 代表取締役

■審査委員(9名) (敬称略/氏名50音順)

植野 友生 味の素株式会社
食品事業本部 マーケティングデザインセンターコミュニケーションデザイン部
コミュニケーション戦略グループ PR チーム長

木村 友輔 株式会社博報堂
PR局 PR プラニング1部 部長 / チーフ PR ディレクター

国枝 智樹 上智大学 文学部新聞学科 ・ 准教授

小林 正史 株式会社プラップジャパン
戦略企画部 部長 / Group Planning Director

竹下 隆一郎 株式会社TBS テレビ
特任執行役員 Cross Dig with Bloomberg
チーフコンテンツオフィサー

河 昴珍 國學院大學
観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 准教授

橋本 良輔 株式会社電通 PR コンサルティング 統合コミュニケーション局 次長

南部 かおり シック・ジャパン株式会社
マーケティング本部 コミュニケーション部長

横田 和明 井之上パブリックリレーションズグループ
株式会社日本パブリックリレーションズ研究所 取締役副社長

添付資料 1

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRSJ）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147